令和7年宇治田原町文教厚生常任委員会

令和7年6月13日

午前10時開議

議事日程

日程第1 付託議案審査

議案第32号 宇治田原町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例を制定するについて

日程第2 各課所管事項報告について

○福祉課所管

・令和7年度介護保険料当初賦課状況について

○健康対策課所管

・令和7年度国民健康保険税当初賦課状況について

○子育て支援課所管

・地域子育て支援センター事業（令和6年度事業報告）（令和7年度事業計画）について

日程第3 付託議案審査

議案第35号 財産の取得について

日程第4 各課所管事項報告について

○学校教育課所管

・大阪・関西万博体験事業について

日程第5 その他

1. 出席委員

委員長	9番	山内実貴子	委員
副委員長	8番	上野雅央	委員
	4番	浅田晃弘	委員
	5番	山本精	委員
	7番	浅田賢茂	委員
	11番	田中大典	委員

1. 欠 席 委 員 なし

1. 宇治田原町議会委員会条例第18条の規定により会議事件の説明のため出席を求めるものは次のとおりである。

町 長	勝 谷 聡 一 君
教 育 長	南 亮 司 君
健 康 福 祉 理 事	立 原 信 子 君
教育次長兼学校教育課長	矢 野 里 志 君
企 画 財 政 課 長	中 地 智 之 君
福 祉 課 長	太 田 智 子 君
福 祉 課 課 長 補 佐	茨 木 伸 悟 君
健 康 対 策 課 長	岡 崎 一 男 君
健康対策課課長補佐	田 中 辰 也 君
子 育 て 支 援 課 長	廣 島 照 美 君
宇治田原保育所長	山 下 愛 子 君
地 域 子 育 て 支 援 セ ン タ ー 所 長	時 田 美 喜 代 君
学校教育課課長補佐	酒 井 隆 司 君
学校教育課課長補佐	重 富 康 宏 君
学校給食共同調理場所長	市 川 博 己 君
社 会 教 育 課 長	田 村 徹 君
社会教育課課長補佐	木 村 幸 治 君
社会教育課課長補佐	小 川 英 人 君

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

事 務 局 長	西 尾 岳 士 君
専 門 官	長谷川 みどり 君

開 会 午前10時00分

○委員長（山内実貴子） 皆さん、おはようございます。

本日は、文教厚生常任委員会を招集いたしましたところ、皆様方にはご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日の委員会は、6月4日の開会日に上程され、付託されました議案第32号及び議案第35号の2議案の付託議案審査及び各課所管事項報告につきまして、お手元に配付いたしました日程により審査を行うことといたします。また、町当局よりの資料につきましてもお手元に配付いたしておりますので、ご確認願います。

付託議案につきましては、委員各位の慎重な審査をお願いいたします。

本日の委員会において、不適切な発言等がありました場合には、委員長において精査を行うことといたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 異議なしと認めます。

ここで、理事者より発言を求められておりますので、これを許します。勝谷町長。

○町長（勝谷聡一） 改めまして、おはようございます。

本日は、令和7年第2回定例会開催期間中におけます文教厚生常任委員会開催いただきまして、誠にありがとうございます。

梅雨に入りまして、今、宇治田原町で蜚が飛び交っております、今、先ほど委員長からもありましたが、梅雨で、来週から少し真夏日ということで、息苦しいというか、少しあまり気持ちのいいシーズンではないなというふうに思っているところでございます。

この間、少しご報告ということで、まず最初に、先月と今月上旬と申しますか東京のほうに道、道路関係、そして高速関係、要望に行ってまいりました。延べ4日でございます。1日は、委員としてご出席の原田議長と一緒にいかせていただきまして、京都府選出の国会議員さんの議員会館も訪ねさせていただきまして、要望させていただきました。一步一步ではございますが、粘り強くこういった形で足運んで、汗をかいてまいりたいというふうに思っております。

また、今月上旬に防災パトロールも開催をさせていただきまして、奥山田のほう、307沿いの法面を見させていただきました。総括の会議の中でもちょっとお話をしたんですが、昨年、警報が実は本町、一回も出なかったということで、逆に少し不気味な感じがしております、なので、今年はまた改めて気を引き締めていきたいなということ

で、山城広域振興局長とも話したところでございます。

京都地方気象台長がお見えになりまして、そのお話もさせてもらったんですが、ある一定期間のスパンにおけますと、結果的に雨量とか、台風とか、そういったものは回数で言うと帳尻を合わしにくるんですよっていう話がありましたんで、先ほどの話じゃないんですけれども、去年なかった分というところで、さらに気を引き締めたいというふうに思っております。

和やかなところでいきますと、修学旅行ですね、小学6年生、そして中学3年生行ってまいりまして、こちらもちよっと残念ながら、少し雨に見舞われてしまったんですが、全行程を終えて、無事に全員元気に帰ってきてくれておりまして、よかったなというふうに思っております。

お礼と報告になります。健活フェスタ、委員の皆さんもたくさん来ていただきまして、ありがとうございました。

この日もまた残念なことに雨に見舞われたんですが、昨年よりも多くの方にご来場いただきまして、140名ぐらい老若男女来ていただいて、よかったなというのが、滞在時間が長かったというふうに原課のほうでは分析をしております、本当によかったと思っております。

もう一個、私も行かせてもらってなんですが、非常にブースが充実をしております、まあまあお値段もするような機器を使いながら、自分の体をですね、体と健康状態とか、運動年齢といいますか、計測をしたりとか、実際に体を動かして、スポーツ推進委員さんとか、食改さんとか、いろいろな方が連携をいただいてというところで、よかったというふうに思っております。

まだまだ逆に言うと伸び代というか、もっと多くの人に来てほしいなというふうなぐらいの贅沢なコーナーであったというふうに、ちょっと手前みそでございまして、思っております。

少し毛色を変えて話しますと、こういったお仕事、我々からすると仕事になるんですが、企画領域のお仕事でございまして、何が言いたいかというと、ルーチン業務というのはどうなるかという未来が見えたお仕事になります。

例えば、文書の通知に当たっては、文章を作って送ってというゴールが見えます。こういうイベントにつきましては、実はやる側の人間からすると、一定のチャレンジというのが求められまして、もしかしたら自分が思うたとおりにならないというふうなことがあって、そこに要は担当課、担当職員がチャレンジをしてくれたことについては、非

常にほかの職員にとってもそういうロールモデルになるんじゃないかというほうにもちよつと実は思っております。

企画創造型ができる職員というのを私は少し求めておりまして、もちろんルーチンをしっかりと間違いなく効率的にやるというのも、正確にやるというのも大事なんですが、こういった価値創造ができるということが未来づくりにつながると思っております、またできましたら担当課、担当職員、そして協力に入ってくれたほかの担当じゃない職員もおりますので、またお声がけをいただくと励みになりますので、大変ありがたいかなというふうに思っております。

ちょっと前文が長くて恐縮でございますが、本日の常任委員会につきましては、付託議案審査2件、そして各課からの所管事項報告についてご審査を賜ることになります。どうかよろしくお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

○委員長（山内実貴子） ありがとうございます。

ただいまの出席委員数は6名でございます。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の文教厚生常任委員会を開きます。

これより議事に入ります。

◎付託議案審査

○委員長（山内実貴子） 日程第1、付託議案審査について。

◎議案第32号の説明、質疑、討論、採決

○委員長（山内実貴子） 議案第32号、宇治田原町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例を制定するについてを議題といたします。

当局の説明を求めます。広島子育て支援課長。

○子育て支援課長（広島照美） それでは、議案第32号につきましてご説明をさせていただきます。

議案第32号の資料、概要のほうをご覧ください。

本条例改正につきましては、番号法で定める独自利用事務につきましては、地方公共団体が条例で定める事務についても、個人番号を利用して情報連携を行うことができる

と規定されておりました、今回、子育て支援医療事務の追加に伴いまして、所要の改正を行うものでございます。

子育て支援医療事務の追加理由といたしましては、マイナンバーカードを活用した医療費助成の効率化の基盤整備を図るため、国においては、PMHシステム、デジタル庁が開発した自治体向けの医療費助成、予防接種、母子保健分野を対象とした情報連携ネットワークのことを指します。を構築し、オンライン資格確認ができるよう進めています。このシステムと自治体、医療機関等のシステムの情報連携に当たりまして、マイナンバーを利用することになり、本条例に関係事務を追加する必要があります。

また、オンライン資格確認ができるようになりますと、府外の医療機関において受診した場合、現在、償還払いとなっている子育て支援医療等の京都府、本町独自の医療助成が、マイナンバーカードを提示し受診することで、現物給付化となるものでございます。受給者にとりましては、負担軽減、利便性向上が図られるとともに、行政にとっても事務負担の軽減となるところでございます。

このオンライン資格確認の全国的な運用は、国のほうでは令和8年度以降の予定というふうに示されているところでございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。山本委員。

○委員（山本 精） 今、説明いただいたんですけれども、今、府内と府外、どういうふうな形で違いというか、そういうふうなものがあるのかということをやっともう少し詳しく教えてもらえたらと思います。

○委員長（山内実貴子） 廣島課長。

○子育て支援課長（廣島照美） ただいまのご質問いただきました子育て支援医療、府内受診、府外受診についての詳細、詳しい説明をさせていただきますと、子育て支援医療につきましては、府内では、受給者証と保険証を提示しまして、1医療機関につき1か月200円の一部負担で受診できるところでございます。府外等で受診した場合は、一旦保険診療分の自己負担額を支払い後、子育て支援課の窓口で償還払いの手続きをする必要が出てきます。

今後、この国が構築を進めておりますPMHシステムが構築され、オンライン資格確認ができるようになりますと、マイナンバーカード、府外でマイナンバーカードを提示して、府外でも200円の一部負担金の支払いで受診することができるようになります。

今まで償還払いの手続していただいていたのが、その必要がなくなりまして、受給者にとっての利便性の向上が図られるといったようなこととなります。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） 償還払いの手続って今、言われました。それは保護者の方か、その個人のほうから進んでというか、勝手にされてくるんでしょうか。その辺はどうなんですか。

○委員長（山内実貴子） 廣島課長。

○子育て支援課長（廣島照美） 医療受診された保護者の方が窓口で領収書等を持って来ていただいて、申請の手続をしていただく形になります。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） はい、分かりました。

府内では、18歳までの医療費が200円で受けられて、受給者証ですかね、それを見せれば、そういうことができるということやけれども、府外ではそれができない。それを今後はマイナンバーカードを見せることによってできるようになるということなんですけれども、今でもまあまあ色々あると思うんですけれども、マイナンバー制度については、色々な問題、情報漏えいとか起きて、起こり得る可能性もあると思います。

その点も含めて、今後どういうふうにするかということについては、今現在、条例の整備だけということなんですけれども、しっかりとそういうことも起こり得るということを含んでいるということ意見を申し上げておきたいと思います。

もう一件結構です、また。

○委員長（山内実貴子） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようでございますので、質疑はこれにて終了いたします。

討論、採決に入りたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 異議なしと認めます。

議案第32号の討論を行います。直ちに討論に入ります。討論ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 討論なしと認めます。

直ちに採決に入りたいと思います。原案に賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（山内実貴子） 挙手多数であります。よって議案第32号、宇治田原町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例を制定するについては、原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、ただいま出席の所管分に係ります付託議案審査を終了いたします。

◎各課所管事項報告について

○委員長（山内実貴子） 次に、日程第2、各課所管事項報告についてを議題といたします。

まず、福祉課所管の令和7年度介護保険料当初賦課状況について説明を求めます。太田福祉課長。

○福祉課長（太田智子） それでは、福祉課の介護保険料当初賦課状況についてご説明を申し上げます。

A 4一枚物の資料を用意させていただいております。ご覧ください。

令和7年度介護保険料につきましては、6月2日に賦課作業を行いまして、今週、6月11日に被保険者の方々に通知書を発送したところでございます。

保険料につきましては、令和6年度から令和8年度の3か年を期間といたします第9期介護保険事業計画による額としており、被保険者の方々の所得等に基づきまして、資料記載の表のとおり、第1段階から第15段階までの区分を定めております。

中ほど、第5段階とございますが、こちら第5段階が基準額となっております。基準額が年額7万4,300円と設定しております。

第1段階から第4段階までが、左から3列目の算定方法の列に記載しているとおり、軽減割合を乗じた区分となっております。令和7年度第1段階から第4段階までの方々の合計といたしましては1,005人、昨年度と比べまして、39人の減少という結果となっております。

次に、表の一番下をご覧ください。対象者65歳以上の第1号被保険者の数が令和7年度、一番右でございますが、令和7年度では2,828名、左側が令和6年度の数字となっております。昨年度と比べまして、被保険者11名の減少となっております。

また、表の枠外、下部分ですが、賦課合計額と予算額を記載しております。賦課合計額といたしまして、令和7年度は2億2,083万7,300円、令和6年度が右側に記載しておりますが、比較いたしますと205万3,900円の増額となっております。

なお、賦課合計額を第1号被保険者数で割り返した、単純に割り返した1人当たりの保険料につきましては、年間7万8,089円となります。令和6年度と比較いたしますと、1,026円の増加となっておりますのでございます。

説明につきましては以上です。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これにて福祉課所管の質疑を終了いたします。

次に、健康対策課所管の令和7年度国民健康保険税当初賦課状況について説明を求めます。田中健康対策課課長補佐。

○健康対策課課長補佐（田中辰也） それでは、健康対策課所管事項報告といたしまして、令和7年度国民健康保険税当初賦課状況についてご説明申し上げます。

A4裏表の資料、一枚物をご覧ください。

国民健康保険税の賦課に関係してまいります住民税と介護保険料の賦課に続き、令和7年6月2日を本算定日としました賦課作業を実施いたしまして、昨日、6月12日に約1,100世帯に納税通知書を送付いたしました。

今年度の賦課状況は次のとおりでございます。

1、賦課状況ということで、今年度は令和6年度の税率を据え置き、それを前提に賦課を行いました。

当初賦課額の表を見ていただきますと、調定額としまして、医療分で1億2,678万1,000円、介護分で1,989万5,400円、支援金分で5,028万8,700円、全体で1億9,696万5,100円、当初予算積算額と比較し、約430万円のマイナス、約1.1%の減となっております。

次に、昨年度、令和6年度との比較です。

2段目の表に種別ごとの内訳としてまとめております。調定総額で見ますと、当初予算と同様に、いずれの区分におきましても、調定額では減額、600万円の約減少ということで、マイナス約2.9%の減となっております。

税算出の基礎となります基準所得額では、医療分、支援金分では約380万円減少しているのに対しまして、介護分を納めていただく40歳から64歳までの世代の基準所得額は約4,000万円弱増加しております。

1人当たりの所得額と1人当たりの調定額では、いずれの区分におきましても昨年度

を上回っておりますが、国保世帯数、被保険者数の減少の影響を受けて、賦課調定総額としましては昨年度を下回る結果になったと考えております。

次に、裏面をご覧ください。

令和7年度税制改正による影響についてご説明申し上げます。

主な税制改正が2つ行われました。賦課限度額の改正と低所得層の税負担を軽減するための所得基準の改正でございます。

まず、1つ目の賦課限度額の改正ですが、医療給付費が増加している状況を踏まえ、中間所得層に配慮し、負担能力を有する高所得層に応分の税負担を求めるため、1段目の表のとおり、医療分では限度額を1万円引上げ、支援金分では限度額2万円の引上げを行っております。

今回、介護分では限度額の引上げはありませんでしたが、2段目の表のとおり、限度額超過世帯、超過額ともに全ての区分において増加が見られました。

ここで言います超過額とは、納税者から負担していただける上限を超えた税額のことを指しますので、本来でしたら、賦課限度額を上げれば超過額は減ることが望ましい結果と言えますが、逆の結果になっております。

次に、2つ目の改正内容です。低所得層の税負担軽減を図るため、昨年度に引き続き応益割の5割軽減、2割軽減を受けるための所得基準の計算式が3段目の表のとおり改正されました。

具体的に申し上げますと、被保険者数に乗じることができる額として、5割軽減では29万5,000円から30万5,000円と1万円の引上げ、2割軽減では、同じく54万5,000円から56万円へと1万5,000円の引上げが行われております。

ここで言います引上げとは、被保険者側からすれば、軽減対象となる所得総額が緩和されたということになります。

4段目の表が結果を示しております。2割軽減を享受できる世帯は6世帯増えておりますが、5割軽減を享受できる世帯は34世帯減少しております。世帯数の増減だけで見ますと、7割軽減世帯も減少しておりますことから、5割軽減世帯の減少分が制度改正の恩恵を受けて7割軽減世帯へ移行したというわけではないと考えられます。

上の説明文にも記載しておりますが、賦課状況で説明いたしました被保険者1人当たりの所得の増加傾向に今回の制度改正が追いついていない、改正の意図が反映されづらい結果になったと考えております。

以上、説明とさせていただきます。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これにて健康対策課所管の質疑を終了いたします。

次に、子育て支援課所管の地域子育て支援センター事業（令和6年度事業報告）（令和7年度事業計画）について説明を求めます。時田地域子育て支援センター所長。

○地域子育て支援センター所長（時田美喜代） それでは、お手元の資料に沿いまして、宇治田原町地域子育て支援センター令和6年度活動報告、令和7年度事業計画について説明させていただきます。

最初に、資料の3ページをご覧ください。

地域子育て支援センター事業についてです。

令和6年度は、夏祭りを土曜日に開催しまして、平日は仕事で来所できないご家族にもお越しいただきました。22家庭65人の方々にコーナー遊びや踊りなどを楽しんでいただきました。

その際、震災ボランティア、ママ'sアクションさんのバザーコーナーも大盛況で、皆さん数々のおもちゃや絵本、服、生活用品など手に取り、購入しておられました。

わらべうた遊びでは、年々低年齢化しているものの、リピート予約の方もおられまして、プレイルーム利用時に口ずさんだり、お子さんとの触れ合いを楽しまれている様子も見かけます。

子どもががさがさするからと参加を躊躇される方もおられるんですけども、ほかの遊びをしても、童歌は耳に届いているよというサークルさんのお言葉で安心して参加できるとの声もいただいております。

また、食育広場では食生活改善推進員協議会の方々、おでかけ広場では民生児童委員協議会の方々にもセンター利用の親子と和やかに関わっていただいております。

地域の触れ合いの中で、子育て家庭の様々な人間関係が深められるよう、事業を展開していきたいと考えております。

続きまして、4ページ目、「パパママハッピープロジェクト」子育て家庭応援事業についてでございます。

子育て講座「安心感の輪」は、毎年開催している講座ですが、親子の間に育まれる安心感イコール健全な愛着に注目した子育てプログラムで、子育て中の方々の良好な親子

関係を築くためのヒントを学ぶ講座となっています。

同じ年代の子を持つ親同士の不安や悩みの共感がその後の交流にもつながっております。

ほかにも保育ルーム付きの講座を主として展開しておりまして、ひとときお子さんから離れて自分時間を持つことで、心身の癒やしになると喜んでいただいております。

今年度は、地域の方からお声かけをいただきまして、追加講座としてローズウィンドウ講座を開催することができました。

続きまして、5ページ目、ファミリー・サポート事業についてでございます。

活動数は、預かりが1件、送迎が3件で、合計4件となっております。お守り代わりとして安心材料での問合せがほとんどで、その後、ご家庭での調整で利用されないケースが増えています。

引き続き援助会員、両方会員の増員を目指し、周知の仕方も工夫しながら、利用者のニーズに応えられるよう取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、6ページ目、子育てサービス利用支援事業についてでございます。

令和6年度より子育て相談の臨床心理士として、町内両小学校のスクールカウンセラーの先生にお越しいただいております。就学前のお子さんを持つ保護者にとって、臨床心理士という響きに緊張して来られる方も少なからずおられますが、両小学校のスクールカウンセラーであることをお伝えすると、今後の相談場所があることに安心される様子がうかがえます。

相談予約がない月は、プレイルーム利用者との座談会を開き、日頃の小さな悩みや相談に対応していただいているところでございます。

続きまして、7ページ目、令和6年度の成果と課題についてでございます。

成果としては、2点挙げさせていただきます。

1つ目の地域とのつながりでは、おでかけ広場では、民生児童委員協議会の方に各地域2名ずつ親子の触れ合いや遊びのお手伝いをしていただいております。また、わらべうたサークルのスタッフの方、食生活改善推進員協議会の方にもあそびの広場や職育広場で関わりを持っていただいております。

利用者の中には、地域の方々との関わりに初めは緊張される方もおられますが、子どもを中心として過ごす中で、次第に和やかに会話が弾み、子育ての体験談や情報交換が行われております。イベントや事業を通して様々な世代の方と交流することが相互関係の構築につながっていると感じております。

2つ目の地域子育て支援センター周知としましては、母子手帳交付や各乳児健診時のセンター事業のチラシ配布や、1歳未満時と見守り家庭へのポスティングにより、今年度は新規利用者が42家庭と多くの方に利用していただきました。前年度については26家庭でございました。

生後数か月でポスティングに伺った家庭の中には、その後間もなく利用されるというケースもあります。また、利用者支援専門員の寄り添いや子育ての先輩であるママたちの温かい受入れも利用のリポートにつながっていると感じております。

続きまして、課題についても2点挙げさせていただいております。

1つ目の地域子育て支援センターの役割としましては、乳幼児とその親が交流を深めたり、子育ての不安や悩みを相談したり、親としての子育て力を自然に発揮できる土台の支援をする場所として、地域子育て支援センターは重要な役割があると考えております。子育てにおける孤立感や負担感を抱えておられる家庭があることを踏まえ、センター周知や見守りの継続をしながら事業を展開していきます。

2つ目の休日の地域子育て支援センター開放としましては、家族で利用したいけれども、父親が仕事で平日に利用することができないという利用者からの声を複数いただいております。休日にセンターを開放することにより、親子の触れ合いの場所を提供し、家族関係や親子関係に目を向けながら、今後の支援を充実させていきたいと考えております。

続きまして、8ページ目、令和6年度の利用人数表についてでございます。

地域子育て支援センターの令和6年度各事業の利用人数は、表のとおりとなっております。

利用者支援事業の利用人数は、プレイルーム利用者の日常の相談や臨床心理士による子育て相談の人数となっております。

数としては、昨年度より減少していますが、先ほど令和6年度の成果でもお伝えしましたように、先輩ママたちの温かい受入れの中で、お互いに情報交換されることで、不安や悩みの解消につながっていることが増えております。

センターとしましては、子育て中の方々の交流や子育て力の向上につながるよう、見守っているところです。

全体の利用者については4,443名となっております。

続きまして、9ページ目、令和7年度事業概要についてでございます。

令和7年度は、令和6年度の課題でお伝えしましたが、休日のセンター開放を希望さ

れている家庭が複数あることから、土曜日にセンターの開放日を設けることにいたしました。土曜日に講座やイベントがある月を除きまして、年6回センターの開放を行う予定でございます。

令和7年度も、例年の事業内容を基本に、先ほど説明させていただきました課題への取組と併せて事業を進めていきたいと考えております。

最後のページに令和7年度の地域子育て支援センター行事予定をとじておりますので、ご覧ください。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。ございませんか。

浅田晃弘委員。

○委員（浅田晃弘） ただいま説明を聞かせていただきまして、令和6年度の成果と課題ということで、課題の部分にありました休日の地域子育て支援センター開放ということにも、今年度事業概要の中で土曜日にセンターの開放を設ける。いろいろ取り組んでいただいているあかしやなど喜んでおります。

やっぱり子育て支援センター、これを核としていろいろ進めていっていただきたいと思いますので、その辺の見解というのか、がありましたら、少しお聞きしたいなと思います。

○委員長（山内実貴子） 時田所長。

○地域子育て支援センター所長（時田美喜代） 課題のほうで休日の地域子育て支援センター開放を挙げさせていただいたところなんですけれども、今年度4月と5月に土曜日にセンターを開放いたしました。

4月は11家庭、大人14人、そのうちお父さんのほうが4人で、子どもさんについては16人の計30名の方にお越しいただいております。5月につきましては、13家庭、大人の方が16名、そのうちお父さんが5名、子どもさんについては21名の37名の利用がありました。中央公園とプレイルームを行き来しながらの利用で、楽しく過ごされております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 浅田晃弘委員。

○委員（浅田晃弘） 成果がしっかり出ているような感じかなと思います。

これからもまた大変ですけれども、開所日を増やしていただくなどして取り組んでいただけたらありがたいなと思います。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかに質疑のある方はございませんか。

浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） すみません、5ページのファミリー・サポート事業なんですけれども、この預かりの部分ですね、送迎とか。こちらは事前に予約、何日か前に予約しないといけないもんですよね。

○委員長（山内実貴子） 時田所長。

○地域子育て支援センター所長（時田美喜代） ファミリー・サポート事業につきましては、依頼される方がまず支援センターのほうにご連絡いただきまして、ご相談、ご利用内容ですね、どのような利用をされたいかをお伺いしまして、その後、登録されている援助会員さんの中からご協力いただける方を探しまして、おつなぎするという形になっています。

お子さんのアレルギーであったりとか、性格であったりとかを把握していただくためにも、活動前にマッチングと言いまして、依頼会員さんと援助会員さんの顔合わせを行って、その後にお預かりしていただく形となっております。

○委員長（山内実貴子） 浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） 私も一度利用しようかなと考えたんですが、突発的にまず利用ができないことを知ったんですね。子育て助けてほしいとかいうのは、ほんまに明日ないし今とかいうタイミングがあるのが結構現実的にあると思うんですけれども、なかなか厳しいと思うんですけれども、その辺の対応というのは、今後できそうなものなんですかね。

○委員長（山内実貴子） 時田所長。

○地域子育て支援センター所長（時田美喜代） ファミリー・サポート事業のところでご説明させていただいたんですけれども、急遽のときにお守り代わりとして事前にご依頼いただきまして、いつ利用するかは分からないけれども、急遽のときに利用できるよということ、事前に依頼会員登録をされまして、急遽のときには、そのときご連絡をいただきまして、援助会員を探して、つなげていくという形で対応させていただいております。

○委員長（山内実貴子） 浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） 一度やっぱり足を運んで、登録をするということが必要であると。その辺の認知が、突発的になったときに、もう多分手遅れになっていると思うんで、その辺の認知、周知を頑張っていただきたい。私ももちろん発信はしていきたいんですけど

れども、その辺でよろしく願います。ありがとうございます。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかに質疑のある方はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これにて子育て支援課所管の質疑を終了いたします。

以上で、ただいま出席の所管分に係ります各課所管事項報告についてを終了いたします。

これで日程に掲げております、ただいま出席の所管分の付託議案審査及び各課所管事項報告を終了いたしますが、その他、委員から何かございましたら挙手願います。浅田晃弘委員。

○委員（浅田晃弘） 1点お聞きしたいなと思っております。

本町で行ってもらっています障がい者地域生活支援事業の中の1つだと思うんですが、日常生活用具給付事業でございますけれども、いろいろ各市町、村も含めて、市町村独自の取組であろうかなと思うんですが、どういう形になっているのかなと情報を集めていましたけれども、京都市さんは給付基準の見直しということで、4月1日から行っておられます。価格の見直しを行った品目、品目ごとに給付基準をかなりアップしておられるんですが、ほかの市町さんについては、パーセントで、補助率ですね。こちらでやっておられるのか、ちょっと中身は見えないんで、どうしてこのような見直しを行って、価格が上がったのかなという思いがあります。

もともと京都市さんが低かったのかもしれないけれども、そない言うたらちょっと失礼ですけども、やったのかもしれないけれども、その辺の要因等を把握しておられましたら、教えていただきたいなと思います。

○委員長（山内実貴子） 茨木補佐。

○福祉課課長補佐（茨木伸悟） ただいまご質問ございました件ですけども、障がい者等日常生活用具給付事業というものになるかと思っておりますけれども、こちらにつきましては、障がい者の日常生活ですとか社会生活を総合的に支援する法律ですね。いわゆる障害者自立支援法というものの規定によりまして、平成18年から各自治体で実施しているものなんですけれども、こちらにつきましては、給付する用具ですね。日常生活用具の品目ですとか、基準価格の上限というのは各市町村で決めてあります。実施規則で定められておまして、本町は約50品目近いものについて規定しております。

ただ、本町におきましては、現状、日常生活用具の給付は、排せつ管理支援用具とい

う、いわゆるスチーム用具ですね。蓄便袋とか蓄尿袋とか、そういったものの給付が9割以上占めておりまして、そのスチーム装置以外の申請というのが年間数件ということで、現状、まだその基準額の見直しというところにつきましては検討には至っていない状況でありますけれども、ちょっと今後におきまして、他市町村を含めまして調査研究というところは努めてまいりたいと思っております。

○委員長（山内実貴子） 浅田晃弘委員。

○委員（浅田晃弘） 分かりました。

いろいろ調査検討していただければいいかなと思います。

本当に用具上がっているのが京都市さんだけだったんで、きつう上がってるなっていうのが実感でした。

その辺のあたりもちょっと調べていただいて、何か違う政策以外の何かの要因があるのであれば、また本町のそういう給付事業にも役立てるというのか、見直し等行っていただければいいかなと思います。これ、要望しておきます。よろしく申し上げます。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（山内実貴子） 当局から何かございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これで、ただいま出席の所管課に係る事項を終了いたします。

ここで、暫時休憩をいたします。

休 憩 午前10時43分

再 開 午前10時45分

○委員長（山内実貴子） 休憩前に引き続き会議を始めます。

ここで、理事者より発言を求められておりますので、これを許します。南教育長。

○教育長（南 亮司） 改めまして、おはようございます。

委員会開催に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

この間、学校では多くの行事がございました。

まず、小学校のほうですが、5月8日から1泊で伊勢方面へ、中学校は5月28日から2泊で信州方面へ修学旅行、無事終えまして、子どもたちは本当に大変楽しい思い出ができたようでございます。

また、小学校では、ふるさと学習でお茶摘みやお茶漬け給食など、地域の良さを再発見する機会がありました。

さらに、小・中学校ともに学校公開行いました。今後また機会があれば、ご参加いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

また、社会教育のほうでは、スポーツ協会の総会と総合開会式が開催されまして、新会長として奥村前教育長が就任され、同時期に文化協会の総会も行われ、本年度の活動が始まったところでございます。

また、委員の皆さんには既に案内させていただいておりますが、15日の日曜日、グリーンライフカレッジ・ことぶき大学開校式、よろしく願いいたします。

本日は、付託議案として、財産の取得について、報告事項として、大阪・関西万博体験事業についてですので、どうぞよろしく願いいたします。

○委員長（山内実貴子） ありがとうございます。

それでは、引き続き教育委員会所管分に係る事項について進めます。

◎付託議案審査

○委員長（山内実貴子） 日程第3、付託議案審査について。

◎議案第35号の説明、質疑、討論、採決

○委員長（山内実貴子） 議案第35号、財産の取得についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。矢野教育次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） 改めまして、皆さん、おはようございます。

議案第35号、財産の取得についてご説明をさせていただきます。

議案第35号資料をご覧いただきたいと思います。

文部科学省が掲げますGIGAスクール構想に基づきまして、令和2年度に整備を行いました児童・生徒1人1台タブレット端末の更新のため、京都府共同調達によりまして、京都府市町村GIGAスクール共同事業体、代表、株式会社内田洋行ITソリューションズから4,986万6,300円で取得しようとするものでございます。

取得財産といたしましては、3小・中学校の全児童・生徒等に配備をするタブレット端末、アップル社のiPad690台のほか、関連機器やソフトメディア一式でございまして、納入期限は令和8年3月31日としております。

説明につきましては以上でございまして。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりました。これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、質疑はこれにて終了いたします。

討論、採決に入りたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 異議なしと認めます。

議案第35号の討論を行います。直ちに討論に入ります。討論ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 討論なしと認めます。

直ちに採決に入りたいと思います。原案に賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（山内実貴子） 挙手全員であります。よって議案第35号、財産の取得については、原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、ただいま出席の所管分に係ります付託議案審査を終了いたします。

さきの審査と併せて、以上で今回文教厚生常任委員会へ付託されました2議案の審査を終了いたしました。

この審査の結果につきましては、文教厚生委員会委員長名をもって、委員会報告書を議長宛てに提出いたします。

ただいま審査いただきました付託議案について、また総務建設常任委員会に付託されている議案につきましても、6月19日の本会議において討論される方は、討論通告書を6月17日火曜日午後5時までに議長宛て提出してください。

◎各課所管事項報告について

○委員長（山内実貴子） 次に、日程第4、各課所管事項報告についてを議題といたします。

学校教育課所管の大阪・関西万博体験事業について説明を求めます。矢野教育次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） それでは、大阪・関西万博体験事業についてご説明をさせていただきます。

事業の趣旨は、多様な国の文化や価値観に触れ、国際理解を深めるとともに、未来社会について考える貴重な機会となる大阪・関西万博への体験機会を提供するものでござ

います。

維孝館中学校は7月2日水曜日に全学年、田原小学校は9月24日水曜日に5、6年、宇治田原小学校は9月29日月曜日に5、6年が大阪・関西万博に訪れる予定としております。

予約パビリオンにつきましては、現在、中学校のみが決定しております、小学校につきましては、現在検討中でございます。

各校の下見につきましては、資料の記載のとおりとなっております。

懸念されております熱中症対策等につきましては、会場内の給水機や冷却ミスト、クールスポット場所の事前把握、また公式マップによる事前学習を行うとともに、冷却タオル、塩あめ、経口補水液の携帯、また日光下での屋外活動をできるだけ少なくするため、事前にパビリオン等の建物及び屋根の下での活動を多く設定する予定としております。

また、各校1名ずつ、教育委員会事務局職員の随行を予定をしております。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（山内実貴子） 南教育長。

○教育長（南 亮司） 4月23日に町長、指導主事2名と私の4名で万博に行ってみりました。そのとき感じたこと等について簡単に報告したいと思います。

「百聞は一見にしかず」というふうに申しますように、シンボルの大屋根リングには圧倒されました。伝統的な貫接合に現代の工法を組み合わせた最大の木造建築物としてギネス記録に認定されているようでございます。

1週2kmの大屋根リングの上を30分かけて歩き、各国それぞれ自国を象徴するパビリオン、そして大阪湾を望み、とても爽快な気分でした。

そして、たくさんの学校の子どもたちが訪れており、子どもたちのわくわく感が伝わってきました。

そのほか、日影や休憩スペースもたくさん設けられており、安心しましたが、自動販売機も含め全てキャッシュレス、また食事が高いのは驚きでございました。

また、万博の教育的な意義として、「「いのち」を体感」、「SDGs達成の取組を体感」、「未来社会を体感」、「世界中を身近に体感」するなどが挙げられておりますが、ぜひ宇治田原の子どもたちにも現地でそれを体感してほしいと願っています。

私も2度目の万博でございまして、思い起こせば半世紀前の1970年、私が小学校のとき、大阪で万博が開かれました。アメリカのアポロ11号が持ち帰った月の石が一番人気

でしたが、残念ながら待ち時間が4時間で、それを見ることはできませんでした。

科学も飛躍的に進歩した今、子どもたちにとってとてもすばらしい体験となると信じております。

先ほど次長からも説明がありましたが、教育委員会も含め、学校も複数で下見を行い、熱中症には特に十分な対策を講じていますので、不測の事態が起こらない限り、予定どおり実施いたします。

さらに、8月20日と21日の2日間、関西パビリオン京都ゾーンで宇治田原町のお茶のブースが設けられています。ぜひ足を運んでいただき、万博を体感いただきたいと思います。

以上で報告を終わります。

○委員長（山内実貴子） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑のある方は挙手願います。田中委員。

○委員（田中大典） 何点か教育長のお伺いさせていただきたいと思います。

維孝館中学校が来月2日で、両小学校が9月の下旬に行くということになっておりますけれども、最近レジオネラ菌が発生しているとか、あと夜間ですので、今、あまり小学生、中学生行く時間関係ないんですけれども、ユスリカが大量発生しているであるとか、ちょっと問題もちょろちょろ散見されております。熱中症以外の問題もいろいろあるかと思うんですけれども、そのあたりどうお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

○委員長（山内実貴子） 矢野次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） 万博が開催されて、様々な事象等が発生しておりますが、その都度、主催者のほうでそれに対する対応というのを図っておられます。その情報につきまして、各学校等に情報提供する中で、その部分については十分に安全対策を講じて、学校のほうで体験事業として取り組んでいただきたいと思いますというふうに思っております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 田中委員。

○委員（田中大典） 特に熱中症について、特に暑さ厳しい時期でございますので、非常にリスクが高い。私、まだ行ったことないんですけれども、影が少ないというふうにも聞いております。対策はしていただいているかと思うんですけれども、そこをもう一つ、必要以上に気をつけていただきたいと思いますということと、あとグループで行動されるかと思うんですけれども、例えば小学校、中学校、学年で移動される、クラスで移動される、

またクラスでも細かく何人かで移動されるとか、そういうふうなところはどういう計画になっているかお聞かせください。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 失礼します。

維孝館中学校に関しましては、来月、7月2日に実施ということで、まず初めは、1、2、3年で行くんですが、学年ごとの移動をまずは基準としています。そして、お昼御飯を食べてから、グループごとの活動にするということで、事前にマップのほうを1人1枚渡しまして、休める場所とか、クールスポット等を事前学習としてグループごとに把握するというふうに伺っております。

小学校については、下見を7月22日に予定しておりまして、そのとき2校の教員がそろって6名行く予定をしております。その中で、現地を見てから、グループ活動をするか、どのようにするかというのを見極めるというふうに伺っております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 田中委員。

○委員（田中大典） あと、特にこれ、グループで行動される場合だったら、迷子というの也被られることかなと思います。せっかくこういう機会、もう本当に次いつあるか分からないような貴重な機会ですので、いろいろな学びをしてほしいなと思うんですけども、万博会場の滞在時間であるとか、あとどれだけのパビリオンを訪問できるかという見通し的なこと、教えていただけたらうれしいです。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 失礼します。

具体的に何時間というのは、ちょっと今、資料はございませんが、宇治田原町から大阪というので、移動時間がやはり長くなりますとともに、下校時刻が小学校のほうでは決まっております、そこに合わせて帰れるようになるので、滞在時間はかなり短いかなというので、その短いというの、熱中症対策の1つとも考えています。長ければ長いほど、やはり日にさらされる時間も長くなりますので、まずは行って、全員でこんなところかというのを体験するというのをメインで考えておりますので、正確には何時間とは言えませんが、ほかの地域に比べて、短くコンパクトな活動になっております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 田中委員。

○委員（田中大典） また分かった時点で教えていただければうれしいです。

今回、こういう本当に貴重な機会ですので、教育長のおっしゃる「再発見！思いを形

に」という、再発見ではないかもしれませんが、子どもたちの夢につながる体験になればいいなというふうに思います。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかに質疑のある方ございませんか。山本委員。

○委員（山本 精） 今もありましたが、行動については、基本的にはグループ行動ということなのですが、大体何人ぐらいのグループというふうに聞いておられますか。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 中学校のほうに今、何グループでというのは、まだ実際は伺ってはいないんですが、一般的に考えて、四、五人までのグループかなと思っております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） それと、先ほどから熱中症対策ずっと出ています。1つは、アラートが出ていた場合に、前日の3時ぐらいまでに出るんだと思うんですけども、そのときはどのような対処になるのでしょうか。延期になるのか、中止になるのか、その辺のことはどのように考えられていますか。

○委員長（山内実貴子） 矢野次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） 熱中症警戒アラートにつきまして、発令された場合でも、児童・生徒の安全を最優先に、活動時間の短縮ですとか、屋内施設の活用、また水分補給の徹底、柔軟な対応を講じていきたいというふうに思います。

原則として実施を前提としつつも、当日の状況に応じて、無理のない行動、そちらに努めて、安全に配慮した学習機会の確保に努めたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） 分かりました。

ただ、要するに向こうのほうの対応として、やっぱり事前申込みみたいなことが必要やというふうに聞いています。具体的に、そんなんでも、すぐにそういう対応ができるかどうかということと、あと、このところにも書いていますけれども、冷却タオル持参というふうに書いています。これ、持っておられない家庭もあると思うんですけども、その辺のことについてはどのように考えられているのでしょうか。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 失礼します。

まず、小学校に関しましては、小学校の1年入学時にPTAのほうから冷却タオルを

全員分購入となっております。また、さらに転入生等についても、その都度購入しておりますので、また夏場においては、保護者用にプリントを持参しまして、冷却タオルの使用ということで勧めておりますので、基本的には子どもたちは多くの者が持っています。

ただ、持っていない児童については、学校のほうでも何かしら用意をできるようにはしようと思っています。

あと1点、中学校につきましては、今、宇治田原町にも企業の向上がありますが、エフケイ様のほうが生徒全員分と教職員分に氷のうのほうを寄贈していただいています。それがちょうど6月12日に届いたところで、また来週水曜日にも寄贈式のほうを学校のほうで行いますが、その氷のうも活用できればなと思っています。

また、校長会議の中で、中学校のほうで使った氷のうを小学生のほうにもちょっと融通できればなという話も出ておりますので、ほかの地域にはない企業さんとの取組という熱中症対策も1つのポイントかなと思っています。以上です。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） いや、その前の熱中症アラートのところでの、急に訪問ができるんかどうかというような問題はどうかでしょうか。

○委員長（山内実貴子） 暫時休憩します。

休 憩 午前11時04分

再 開 午前11時05分

○委員長（山内実貴子） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

矢野次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） 向こうでの万博会場では、パビリオンの見学をすることになっておりますが、パビリオンにつきましても予約制でございます。当然パビリオンは屋内でございますので、そちらでの活動を優先をしたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 山本委員。

○委員（山本 精） はい、分かりました。

健康がね、健康というか、子どもたちの安全対策が本当に必要やと思うんで、そのところはよく考えて実行していただきたいというふうに思います。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかに質疑のある方ございませんか。浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） すみません、ちょっと何点か質問させていただきます。

先ほど教育長のお話の中にもあったんですけれども、高過ぎる食事代、こちらに関しては、小学校、中学校と、昼食はもう団体は取られる予定なんですかね。個人になっているんですかね。

○委員長（山内実貴子） 矢野次長。

○教育次長兼学校教育課長（矢野里志） 昼食につきましては、児童・生徒が持参した弁当を基本としております。以上でございます。

○委員長（山内実貴子） 浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） 先ほどお話にもあったんですけれども、現金が使えない。途中でドリンク等が、お水、お茶等がなくなった場合、その辺は購入等はどういうふうにされるんですかね。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 他市町村のほうの実践を聞いていると、ＩＣカードを事前に用意させて持って行く等あるんですが、今のところ宇治田原町では、ＩＣカードの事前購入及び持参というのは考えておりません。

お茶に関しては、今までのいろいろな行事でも多めに持ってくるようにとあるもので、大きめの水筒を持ってくると、あとは引率者のほうが多めに行きますので、予備の水分等、またそのときはキャッシュレスなので、教師がどこかで購入するということも考えてはおります。以上です。

○委員長（山内実貴子） 浅田賢茂委員。

○委員（浅田賢茂） お弁当も持参ということなんですけれども、大変暑い中であると思うので、その辺がはっきり言って腐ってしまったりとか、その辺もしっかり周知をいただいて、本当にもう一生に一度の楽しい機会になると思います。やっぱり子どもたちも、その楽しさの中で学んでいただくと。いい思い出にさせていただきたいとほんまに切に願っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございます。

○委員長（山内実貴子） ほかに質疑ございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これにて……、原田議長。

○議長（原田周一） ちょっと何点かお聞きしたいと思うんですけれども、まず、先ほどわくわく感とか、教育長のお話あったんですけれども、私も大阪の万博は舞台にも出た経験もありますので、非常にそういう意味では参考になると思うんです。

ただ、説明聞いていて、ちょっと「あれっ」と思うのは、お昼は各学年ごとにグルー

プ行動するというような説明でしたよね。その後、四、五人のグループ分けということですよ、行動されるのが。ということは、引率の職員は何人ほど行くんでしょうか。

これ、各学年、例えば中学校の場合ですと、3で割っても約70人ぐらい、1学年。それを四、五人のグループで分けると、10幾つかのグループが、班ができると思うんですけども、それだけの職員がおるのかどうか。

それはなぜかいうたら、今のお茶のところで質問あったように、もし途中でお茶などがなかったら、教師はキャッシュレスのカード持っている。だから、そのカードは、各グループにそれぞれ先生がおったら対応できるんですけども、そのときの天候にもよるんですけども、全くそういう飲料が取れないというようなことになったときに、どう対応、安全性という面ではどうかなと思うんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） グループ活動に関しては、基本的に今、維孝館中学校のほうを予定しています。維孝館中学校につきましては、1、2、3年全学年が行きますので、職員室に事務職員プラスあと1人2人残した状態で、ほぼ全員での引率になります。

ただ、グループの全てに教師がつくというのは、主体的な活動から考えても、望ましいとは思いません。

ただ、A4の地図を事前に多く渡しておりまして、事前にどこに教師が配備されるか、配置されるかというのは、生徒にも分かった状態での引率になりますので、グループが分かれたとしても、何かあったら、ここにいる先生に言うようにという指導は事前に行う予定をしております。

なので、人数に関しては、30名を超える教師が引率に中学校では行きます。

小学校に関しては、5、6年生の引率ということで、5、6年生の担任プラス7年生と言われる学年を持っていない教師が一、二名に足しまして、事務局の教育委員会から1名という形なので、中学校に比べたら引率者は少ないんですが、小学校のグループ行動というのは、まだちょっと下見をしてからということですので、グループで分かれ過ぎたときの危険性は、小学校教師のほうも重々承知しておりますので、その辺は気をつけながら、また下見の中で考えていこうと思っています。以上です。

○委員長（山内実貴子） 原田議長。

○議長（原田周一） それと、先ほど何かマスクを配付するちゅうなことを聞いたように

思うんですけども、これはどういう意味ですかね。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 氷のうのほうで、氷のう、氷を入れた袋のことですね。スポーツとかでピッチャーが肩を冷やしたりするとか、それをエフケイ様のほうから1人1つずつ頂けるんです。それを持って行くので、氷冷タオルよりももっと冷たさが持続するものというので、ほかの学校にはない特色として持って行ければなと思っております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 原田議長。

○議長（原田周一） それと、最後に、先ほど小学校のほうなんです、登校と下校の時間が決まっているということで、場合によったら、移動時間が長いんで、万博会場までの。ということで、滞在時間が短くなると、可能性があるというふうなお話でしたね。

そうすると、途中でですね、当然これ、大阪まで高速道路使われて移動されると思うんですけども、途中で例えば高速道路なんかで事故なんかあった場合、ほとんど車動かないというようなことが想定されるわけですね。かなり舞洲まで遠いんで。そうすると、結局、その滞在時間が全く取れないというようなケースもあると思うんですけども、その辺のちょっと対応とかいろいろなことを考えておられるのでしょうか。

○委員長（山内実貴子） 酒井補佐。

○学校教育課課長補佐（酒井隆司） 失礼します。

行きに関しては、今までもやはり大阪方面の校外学習等でも、混み合っ、少し現地に行くのが遅れるということはあるんですが、活動時間に全く間に合わないということは今までもありませんでしたので、短くなることは想定はするんですが、行ってすぐ帰るということは想定しておりませんので、活動時間が短くても、行ってできることをやろうと思っております。

また、帰りに関しては、向こうを出発する時刻は決まっておりますが、実際に下校時刻に帰れないことも想定されます。その際は、バスの中から順次学校にどの辺だという連絡は常に入れますので、それによって下校が遅れる場合は、保護者連絡アプリのほうで少し遅れていますとか、何時頃を想定していますというので周知できるようにしようと思っております。以上です。

○委員長（山内実貴子） 原田議長。

○議長（原田周一） そのあたりは、安全性含めて、よろしくお願ひしたいと思うんです

けれども、何せ私が心配するのは、中学校のほうは、まだこれ、7月なんで、まだ時間はあると思うんですが、これ、小学校のほうは9月ですよ。ということは、もう万博の終わりのほうの期間で、意外と集中するんじゃないかと。だから、余計混雑するということがちょっと想定されるんで、お聞きしたんですけれども、だからそのあたりの対応ですね、せっかく行くのに、バスだけ乗って帰ってきたいことに極端な話なっても、どうかと思うんで、そのあたりの対応だけはしっかり、職員の方に下見含めて、お願いしたいと思います。

何せ先ほどから各委員からいろいろ出ていますように、特に子どもの健康については、熱中症やら、今の先ほどのレジオネラ菌やら、あるいは今のユスリカの問題とか、いろいろなことがありますんで、報道されているんで、そのあたりの対応だけはしっかりよろしく事故のないようにお願いしたいと思います。以上です。

○委員長（山内実貴子） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） ないようですので、これにて学校教育課所管の質疑を終了いたします。

以上で、ただいま出席の所管分に係ります各課所管事項報告についてを終了いたします。

これで日程に掲げております、ただいま出席の所管分の付託議案審査及び各課所管事項の報告を終了いたしますが、その他、委員から何かございましたら、挙手願います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 当局から何かございませんか。

（「特にございません」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） これで、ただいま出席の所管課に係る事項を終了いたします。

◎その他

○委員長（山内実貴子） 次に、日程第5、その他を議題といたします。

委員から何かございましたら、挙手願います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 当局から何かございませんか。

（「ございません」と呼ぶ者あり）

○委員長（山内実貴子） 事務局から。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

○委員長(山内実貴子) ないようでございますので、日程第5、その他について終了いたします。

本日は、付託議案2件及び各課所管事項等、多岐にわたっての審査が終了いたしました。無事に審査を終了できましたことに御礼申し上げます。

本年度も第1四半期の終盤に入り、事業執行が本格化してくる時期となりました。各所管課におかれては、早期の事業着手、速やかな事業進捗を行う中において、適正な執行に努めていただくよう強く求めておきます。

また、委員会所管に係ります重要事項、懸案事項の報告につきましては、今後においても遺漏のないよう重ねて要望しておきます。

7月の閉会中の委員会においては、第2四半期の執行状況の報告を願う予定としています。7月16日午前10時から予定しておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の文教厚生常任委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉 会 午前11時18分

宇治田原町議会委員会条例第26条の規定によりここに署名する。

文教厚生常任委員会委員長 山 内 実 貴 子